

あびこの文化

発行人
村上智雅子
我孫子市
若松122-6
04(7184)
1804

文化講演会・総会を開催します

日時 五月二十五日(日) 14時～ 文化講演会
16時～ 総会

場所 南近隣センター(けやきプラザ)9階ホール

○上履きをお持ちください。

(第四二回) 文化講演会の開催

(我孫子市教育委員会後援)

演題 『暗夜行路』に描かれた日本橋界限

講師 辻史郎氏 (白樺文学館 館長)

定員 当日先着 80名 (上履きをお持ちください)

参加費 三〇〇円(会員無料)

テーマ 令和五年に我孫子市教育委員会から白樺文学館・楚人冠記念館の「館報」が発刊されました。両館の館長でもある辻氏が「館報」でまとめ、発表した論文を基に、志賀直哉が小説『暗夜行路』などに書き表わした「日本橋界限」について講演頂きます。

「日本橋界限」は、志賀直哉の小説、日記、書簡などでもたびたび取り上げられ、神保町、銀座などと並んで

学生時代からの行きつけ

の場所であった。また、『暗夜行路』の日本橋界

限の描写はいつものものなの

か」と語る辻氏の問題意

識は、深い興味をそそら

れます。(「館報」本文 63

頁)



写真は、三井住友トラスト不動産の「移りゆく日本橋」の姿HP及び「三越アーカイブス日本橋」から、左上:近年の日本橋、右上:大正8年頃の日本橋、左下:近年の三越、右下:大正時代(不明)、

現在の日本橋(明治四四年、一九一一年)を跨ぎ一九六四年の東京オリンピックの開催のため建設された首都高速道路は、令和一七年(二〇三五年)度の開通に向けて、昨年(二〇二四年)から日本橋区間地下埋設工事を行っています。(高架橋撤去は二〇四〇年度)

このように大きく変貌しようとしている日本橋界限をこの時点で知っておく意味も深いと思います。

志賀直哉や白樺派文学に興味を持たれている多くの方々(志賀の人間像や明治・大正から昭和と近代化に変貌する日本の姿を理解する機会となる)ことを期待しています。

お知り合いにも声を掛け、是非ご参加下さい。

令和七年度総会の開催

文化講演会に引き続き同会場(我孫子市)で令和七年度定期総会を開催します。

日時 五月二十五日(日) 16時～ 総会

場所 南近隣センター(けやきプラザ)9階ホール

○上履きをお持ちください。

議事 ① 令和六年度事業報告、② 令和六年度決算及び監査報告、③ 令和七年度事業計画、④ 令和七年度予算、

⑤ 令和七年度予算、

議案書 後日届く議案書をご覧ください。議案書は、当日お持ちください。

その他 七年度の会費は、当日会場受付か議案書に同封の振込票でお支払い下さい。

★ 史跡文学散歩のお知らせ (我孫子市教育委員会後援)

・テーマ:「日本橋界限を訪ねる」

・日時:6月14日(土)9:00(我孫子駅改札口集合)～15:30頃

・行先:中央区日本橋一帯(詳細未定:例示)、

日本橋、三越本店、コレド室町、貨幣博物館、他

・講師:越岡 禮子氏 (当会顧問) 雨天決行

・要旨:上記文化講演会を基に『暗夜行路』などに書き表わした当時の『日本橋界限』に思いを馳せながら、新しい街づくりが進んでいる日本橋界限を散策します。

・定員:20人(申込み多数時は抽選) 参加費:500円(会員無料)

(※参加費に参加者本人の交通費・昼食代などは含まれません)

・申込:6/1～6/5の間に電話番号を記載したメールで申込む

ashit.aka1114@gmail.com

・その他:鉄道等で移動し、現地で昼食を取ります。(店舗等未定)

・問合せ先:芦崎 敬己 080-5029-6844

放談くらぶ

ピアノスト 大川 由美子さん

「スペイン、アンダルシアに魅せられて」



◇ 放談くらぶに参加して

参加者 篠崎美代子（布佐）

大川さんは以前より存じあげており、ご自宅でのコンサートなど何回か拝聴したことがありました。その時にスペインの作曲家の曲名は忘れましたがダイナミックな演奏を聴かせていただき、とても印象に残っております。

海外留学のご経験やスペインの音楽に熱中したことなど、軽快でチャイミングな語り口につきり魅了されました。

何時か行つてみたいとおもっていた国、ケセラセラ（スペイン語から派生した表現）なる様になる、情熱的でおおらかな明るさに私も憧れます。

最後はもの忘れの多いこの頃ですが、楽しい脳トレまで教えていただき楽しく心と和むひと時を過ごすことが出来てとても良かったです。

◇ 大川 由美子さんの話を聞いて

納見恵美子（会員）

スペインは、私が行つてみたいと思っていた国の一つでしたが、行けずに終わってしまいました。特に、キリスト教文化とイスラム教文化が、混在するというアンダルシアに、興味を持っていました。

もし、私がアンダルシアに行っていたら、きっと、お話を共感を持つてお聞きしたと思いますが、今日は、憧れをもつてお聞きしました。

楽しいお話がうかがえました。

ヨーロッパで、ピアノストとして活躍され、また、各国語に堪能という、英語だけで、お上手げ状態の私にはとても信じられないような存在のかたですが、親しみやすいお話ぶりのなかで、スペイン語の習得をなさるのに、講義中の知っている単語をメモし、家に帰つてその意味を調べ、その意味をつなぎ合わせて、講義の内容を把握したという、苦労話もお聞きして、非常な努力をなさったことも知りました。やはり、努力なくして成功はないのだと、楽しいだけでなく良いお話も、うかがえました。

私にはもう、遅いけど、いつか孫娘に、今日のお話を聞かせたいと、思ったりしました。

開催：四月二七日（日）14 時
場所：あびこ市民プラザ会議室Ⅰ
参加：二六名（会員九名）



やなせたかし先生の思い出

芦崎 敬己（会員）

三月三一日からNHKの連続テレビ小説「あんばん」が始まった。

朝ドラ「あんばん」は、『アンパンマン』を生み出したやなせたかしと暢のぶの夫婦をモデルに、二人があらゆる荒波を乗り越え、生きる喜びが全身から湧いてくるような愛と勇気の物語」とNHKでは紹介している。

やなせたかしさんは、イラストレーター、絵本作家、作詞家など多様な才能を持つ漫画家であることは良く知られている。

私にとつても、昭和三九（一九六四年）に放送していたNHKの番組「まんが学校」に出演し、漫画の描き方やクイズを説明していたやなせたかしの姿を臆気に覚えている。その後、昭和五一（一九七六年）に大学を卒業し、就職した会社が世田谷区内の性教育関係の書籍や教材を制作している小さな出版社だった。社長の北沢杏子氏は、一九七二年に幼児用の性教育絵本「なぜなのママ？」を既に出版していた。

性教育」という言葉も社会的な理解が広がっていない時代に幼児を対象とした絵本の出版で、教育界ばかりでなく一般社会にも一大センセーションを巻き起こしていた。そしてこの本の表紙のイラストをやなせたかしさんが描いていたのだ。

その後も、やなせたかしのイラストで「なぜなの？。パパ」や「性教育スライド」を制作し、他の多くの教材も制作した。



私はこの出版社を一年程で退職した。そして、昭和五三（一九七八）年秋に高齢者の生きがい就業を推進する公益社団法人、都区内のシルバー人材センターの設立時職員として採用され、退職まで勤務した。

シルバー人材センターでは設立から暫くの間、高齢者の就業を進める事業に重点を置いて運営していたので、広報活動を十分にしていなかった。しかし数年が経過した一九八五年頃、近隣の五センターに呼掛け共同で会員増強の広報用ポスターを作成することになった。

ポスター作成の担当となった私は、共同の会議の中で思い切つてやなせたかしさんに「ポスター原画を描いて貰うことを提案した。受諾される自信は無かったが、以前に勤めた出版社のコネを使いやなせ先生を紹介して貰った。その後、ポスター原画の作成を六センターが共同で行うために組織的、予算的な承認を取る手続きは結構面倒だった記憶だ。何とか六センターが各組織で共同作成の承諾を取れた。

その後、新宿区曙橋の先生のスタジオを訪問した。

以前に表紙絵などを描いた出版社からの紹介の話や、シルバー人材センターの事業趣旨を緊張しながら説明し、ポスター原画の制作を丁寧に依頼した。

すると、「ああ、いいよ」ととても気さくに承諾された。先生の生れ年は私の父より一歳上で、初めは怖そうな印象だったが、帰る頃には親しく話ができて、安心した。

先生には、ポスター原画を一五年程の間に三回描いて貰った。一枚目と二枚目の原画は、アクリル絵の具で描かれていて、原画に質感もあり力強さを感じた。

ところが三枚目の原画は、水彩絵の具だった。原画の受取りに伺った時にこれ迄のアクリル絵の具と同じと思っていたので、私は「先生、これは習作ですか？」と聞いてしまった。すると先生は、「何だ、気に入らないか？」とだけ仰った。酷いことを言ってしまったと即座に思い、「いえ、そうではないんです。今までと感じが違うので、……」と答えて、冷や汗をかきながら原画を受取った。

三回目の原画は、メインキャラクターの周りを多くの小さなキャラクターが取り巻く、元気のある楽しそうな作品だ。しかも先生は、ポスター原画ばかりでなく、カット用の人物画もたくさん描いて、細かな気遣いをしてくれていた。失礼な言葉をお詫びして、原画を受取り事務所に持ち帰った。先生に暴言を吐き、ヒヤツとした忘れられない思い出だ。



左:他のセンターのA氏、中央:やなせ先生、右:筆者
新宿区曙町のやなせスタジオ、1991年6月



左:2回目の原画、中央:1回目の原画、右:3回目の原画
都内のシルバー人材センターの事務所内

新入会員紹介

七十代でくくく人生

会員 前原 安世

私が当会に入ったきっかけは、講演「稲村雑談」に参加したこと。とても有意義な時間でした。受付に次回の予定や計画があるかの確認をいたしました時、「当会に入れば」とお誘いを受けて、即入会いたしました。というのも受付の方の印象がとても良かったのです。

『受付はその組織の顔である』と言われていましたね。私も好感度良く感じたこと。入ってみてその印象が間違っていないかった事を嬉しく思っております。知識の豊富な方々との交流は、人生の終結に向かっている私にとって得難いものです。目からウロコがポロリ、ポロリ。

中学生の国語の時間に習った短歌。何かの時、心の浮かぶ諸々のことを五・七調で自己流で作ってきていました。プロジェクトとして短歌の会があることを教えて下さった方の勧めがあったので、これも即入会いたしました。今短歌熱がみなぎってきております。日記は三日坊主の私が短歌や俳句は好きで続けておりました。一二歳の時から、指を折りおり心の内を読むことで、考えることの大切さを身に着けてきたように思えます。

三二文字のすごいところは、後で読み返した時、長文の言葉で読むより、当時のことがありありと思い出せることです。思い出というのは心の栄養・スパイスだと思います。かの言語学者金田一春彦氏は『思い出を沢山持っている人は幸せである』と言っていました。私も落ち込んでしまったりしても、楽しいことを思い出して浮上することが出来ました。

主人も「くよくよしても何も変わらない、変わらないことをいつまでも思っている時間が無駄」と言っていました。今元気でいられるのも、主人のおかげです。

余命宣告されても、生きる事に諦めず、前向きに生きたお手本があるので、私も見習っていこうと思っています。

知識は生きている限り学ぶ事が出来ます。この会でいろいろと学ぶ楽しさを実感して、充実した人生を終えることができますよう、努力していきたいと思っています。

(令和六年二月入会)



あひだより17号

放談くらぶ

テーマ

『武者小路と我孫子―志賀との絆に触れて』

講師 村上 智雅子（会長代行）

白樺派御三家、柳宗悦、志賀直哉、武者小路実篤の中で、我孫子での滞在期間が一番短いのが、武者小路で僅か一年九カ月です。短い期間ながら、作家活動、人生設計の上でも、想像以上の活躍をしました。

大正五年十二月に我孫子町根戸に新築転居して以来、翌年四月には、自宅に我孫子刊行会を設けて『日本武尊』『カチカチ山と花咲爺』『AとB』など、翌七年にかけて自書八冊を刊行しています。

根戸での生活は、景色に恵まれたものの不便など、ろなので、妻房子、幼女喜久子の他に金子洋文や書生、房子の妹なども同居し、武者小路は創作活動に励みました。当初は体調不良も残つていて回春堂の荒井医師の回診を受けたり、囲碁の相手をしてもらったりして健康を取り戻し、そして何よりも志賀や柳との家族交流や文芸談話により意欲を取り戻し、文壇やジャーナリズムから距離を置いた根戸の自然や手賀沼の水辺に癒され、今までの自分が描いた理想郷への想いが一気に湧き出し、翌七年七月には、機関誌「新しき村」を創刊。九月には従来の構想であった「新しき村」を建設するために同じ志を持つ若い人々を集め、宮崎県日向に旅立ちます。

一方、志賀直哉にとっても武者小路の来我は、好機となります。長女慧子を亡くしスランプに陥っていた時、武者小路との交流と励ましに刺激され、再びペンを執ることができました。大正六年五月には「城の崎にて」を発表、七月には次女留女子が誕生し、父との長年の不和が解け、十月には「和解」を発表するなど作家活動も生活も好転します。

まるで、糾える縄の如く刺激し励まし合つて、光ある方向に導かれていく二人の絆がわかります。

現在、旧武者小路実篤邸跡は、「我孫子の景観を育てる会」のご尽力で毎月第二・第四土曜日に一般公開されています。（雨天中止）今の邸宅は建て替えられたものですが、この建物についても調べ、又武者小路と志賀の作品や生活の奥底に生涯にわたって流れていたメーテルリンクの宿命的運命論を脱する楽天思想についてもお話します。

日時 六月二十一日（土）午後二時～四時
場所 アビスタ 第二学習室（市民図書館 二階）



武者小路実篤、妻 房子、岸田劉生、（大正6年頃）、
「新潮日本文学アルバム武者小路実篤」から転載

会員消息

「令和の百姓一揆の日」

会員 加藤 マリ子

三月三十日、渋谷の街をホラ貝とともに三〇台のトラクターが行進しました。その後ろを四千人前後の人々のデモが続きました。物見遊山な私もその一人です。「令和の百姓一揆」です。

主催者代表の菅野芳秀さんは「このままだと間違いなく農業は滅びゆく。農業が減んで困るのは農家の私達ではなく国民、消費者です。まだ農民が残っている今、農業を変えていかなきゃいけない。時給十円。農家の間では「墓じまい」ならぬ「農じまい」そんな言葉があります。こんなことを農家に言わせてはならない。保守も革新もない。食と農と命を大事にする日本に変えていかねばならない。」と話しました。この企画に対するクラウドファンディングの最初の目標は百万円でしたが、あつという間に二千万円近く集まり、関心の高さが伺えました。

私は紫のチラシのデザインに魅了され、フランス並みのこの風景を絶対見たいと行きました。知り合いや有名な人があちらこちらにいました。菅野さんも挨拶冒頭、「今日は同窓会みたいに懐かしそうに話が弾んでいます。が、これからが始まりなのです。」と痛い所を突き、気を引き締めました。反省！

天気は晴天、暑いくらい。桜は満開。桜を眺めながらトラクターを運転する人の話を聞いていると、爆音が近づいてきました。大型のオリーブ色のヘリコプターが三機私たちの方にどんどん下がってきます。戦争体験者の方がよく「機銃掃射の操縦士の顔まで見えた」と話していましたが、この時もパイロットの顔が見えるほど近づき、隣の敷地に着地しました。後で調べてみると隣は麻布米軍ヘリ基地だったのです。東京都は全面返還を求めているようですが、米軍側は便利な場所なので手放そうとはしないのだとか。知らなかった。

デモ隊は、賑やかな渋谷、表参道、原宿を経て代々木公園へ。

農業ひつ迫の重大な問題をみんなに考えてもらうために、ゆるやかに、広く、大らかに、この企画してくれた人達の凄さを感じた一日でした。



「太田先生のちよつと豆知識」

新うさぎやまのなつめ

太田 功(市川市)

今回は永い間の教職の道を退職して二〇年以上過ぎた年寄りが老婆心ながら申し上げることです。がまんしてお読み下さい。

最近スマホと称する便利品の時代となりました。久方ぶりに電車に乗ったところ、ほとんどの人がスマホとにらめっこです。何を見ているのか、読んでいるのかわかりませんが、驚いたのは電車を降りてホームを歩きながら目を離さない人もいます。外では自転車に乗りながらの学生もよく見かけます。絶対にやめてほしいと思います。五〇歳に近い私の娘に日常、東西南北を意識しているかと聞いたならば、スマホを開けばすぐわかるので支障ないと言いました。はたしてそうでしょうか。なんとなくで良いから東西南北が頭に無いのはまずいでしょう。常に今は東へ向かっていると、北へ進んでいるとか意識しろと言っているではありません。

私の住んでいる千葉県市川市から東京の新宿へ行くとしたら漠然と西の方へ行くのだと意識します。南の方へ行ったら東京湾です。東の方へずっと行くと九十九里浜、太平洋なのです。箱根の関より東にあるから関東、逢坂の関より西にあるので関西ということもなんとなく承知している常識です。

地図帳は右が東で左が西、上が北ですが、これは誰でも理解していることでしょう。常に自分がどの方向を向いているかはだいたい意識できると思います。わからなくなるのは地下鉄の駅から地上に出た時です。これこそスマホのお世話になったら良いのでは…。東西南北を日

常意識しない人ばかりとなり、総てスマホ頼りになってしまふ世の中が近づいていることを危惧しています。

公衆電話が駅や街にちらほら昔の何分のいくつかは残っています。しかし使えない学生がいるそうです。ましてや小中学生は使えない子が多いとか。現金の投入口がわからないなど、テレホンカードを見たことないので使えないのです。

東日本大震災の時、私は携帯も自宅電話も通じなかった際に公衆電話で助かりました。一〇年以上経った今でもテレカを持ち歩いています。中学生になった孫にそれを見せたら、それ何？と言うのでどなりつけたら、いらないと言って逃げて行つてしまいました。

なぜ警察が一〇番で消防が一一九番なのか、ぐるぐる回るダイヤル式によるのだと教えてやって下さい。はじめからプッシュ式であつたらどんな番号になつていたのでしよう。

郵便番号を知らない小中学生がいるそうです。記入する□(枠)に電話番号を書いたり、そもそも料金が全国統一であることを知らず、同じ都内なら安く、遠い北海道は高いと思つていたり。

高校生の家庭科の調理実習で最後にお茶を入れるよう指示したところ、半分以上の生徒が、急須を知らなかったという話があります。大人でも漢字で書けない人はいるでしょうが目にしたことない生徒はいないでしょう。まったく無意識に生活しています。スマホなど持つ資格がありません。知らせる責任は大人にあります。

年寄りが新しい物事を知らないのは仕方ありませんが、これからの人が現在をそして古い事を知ろうとしないのは許せません。今日があるのはその古いとされることを知っている人々で造られてきたのです。これからを造る人々はそれを敬い、さらに新しい物事を理解し、修得して次へ進むのです。

何でも知つて下さい。知らないのは罪です。そして知り得た事を取捨するのは本人の自由です。新しい事を知

り身につけるには古い事を正しく認識し、新しき事と選択する能力が必要となります。それを養つて下さい。

【令和四年四月一日 オトスコープ誌 68 号から】



注 太田 功氏は、東京都江東区で中学校の校長として長く勤められ、平成一三(二〇〇一)年三月にご退職された。退職後エッセイを(株)冠の会報誌や四谷の耳鼻科の院内冊子に「豆知識」として長年書き続けてこられた。又二〇二三年一〇月エッセイの一端を「日常の言葉と数の豆知識」として当会の放談くらぶで講演されました。

空地や駐車場等に咲く花にご注意下さい！

ナガミヒナゲシ (長実雛芥子)

四月から五月の時期に、空き地や駐車場などに咲くオレンジ色の花を見かけます。

茎を切ると黄色または乳白色の乳液が出てきます。

この液に触れると手がかぶれるおそれがあります。

ナガミヒナゲシは周辺の植物の生育を強く阻害する成分を含んだ物質が生み出されます。更に、多くの種を付け、ばら撒くので爆発的な繁殖力を示します。

(ウィキペディアから)



(連載第12回)

《世田谷の頃の原田京平ファミリー》を知る・

その5の3

原田京平も出品した「聖徳太子奉讃美術展覧会」にかかわる資料解説

付「太平洋画会」・「春陽会」について

画家・歌人 原田京平とそのファミリーの旧宅跡地
(現 加藤様邸ⅡKフラットⅡ東京都世田谷区桜丘
四一九三二六) 探訪・取材の記

平林 清江(会員)

小杉未醒(放庵)〈こすぎ みせい・ほうあん〉 一八八
一〜一九六四。一八八一年(明治一四)、現在の栃木県
日光市に生まれる。九六年、シカゴ万国博覧会への出品
作品を制作するために日光に滞在中の五百城文哉の内
弟子となる。九九年、日光を訪ねて来た吉田博の影響
を受け、上京。小山正太郎の画塾・不同舎に学び、そこ
で森田恒友らを知る。一九〇〇年頃より「未醒」と号す。

〇七年に山本鼎、石井柏亭、森田らが美術文芸雑誌
『方寸』を創刊すると、挿絵を投稿するようになり、後
に倉田白羊らと同人になった。一三年(大正二)、ヨーロ
ッパ各地を外遊し、パリ滞在中に池大雅『十便図』の複製
を見たことから、日本画への志向を強めていく。帰国後
の翌一四年、青年画家たちによる文展第二部への抗議か
ら結成された第一回二科展に出品。また、日本美術院
も再興され、その第一回展に『飲馬』などを出品した。
一七年、森田とともに二科会を脱退、二〇年には倉田、
長谷川昇、森田、山本、足立源一郎らと再興日本美術
院を脱退。

そして、二二年には春陽会の創立に参加し、院展の脱
退者のほか、梅原龍三郎らを会員として迎えた。翌年
頃より「放庵」と号し、二七年(昭和二)には漢学者の公
田連太郎を講師とする勉強会「老荘会」を発足させた。
参加者には、中川一政、木村莊八ら、春陽会の画家たち

のほか、岸浪百艸居や石川寒巖などの南画家たちもい
た。三三年頃に号を「放庵」から「放菴」とする。

帝国美術院の改組(松田改組)で帝国美術院会員に任
命されるが、辞表を提出。三七年には帝国芸術員会員
を命じられた。四五年、新潟の別荘・安明荘に疎開、田
端の住居は空襲で焼失したため、そのまま安明荘を自
宅とした。六四年、新潟で没。故郷の日光の山墓に眠る。
《双馬図》は、春陽会第三回展に出品された《馬》と考
えられる。《母子採果》は、一九二五年に手がけた東京
大学安田講堂の壁画に近い作風を示し、《羅摩物語》な
どと同様、この時代の優品の一つ。《松下人》は春陽会第
一三回展の出品作品で、この頃には本作のような本格
的な日本画の出品が多数を占めるようになっていった。

木村莊八(きむら しょうはち) 一八九三〜一九五八

一八九三年(明治二六)に現在の東京都中央区東日
本橋の牛肉店「いろは」第八支店に生まれる。一九一〇
年(明治四三)頃より白馬会の葵橋洋画研究所でデッサ
ンを学び始める。翌年末に同所で学んでいた岸田劉生に
出会い、一二年(大正一)に岸田や齋藤与里に誘われヒ
ウザン会の結成に参加、同会解散後は岸田や高村光太
郎らと生活社を結成、一五年に草土社の結成にも岸田
などと参加。前衛的な洋画家として活動しながら、北
山清太郎に雇われて『現代の洋画』の編集や執筆に携わ
り、西洋美術に関する翻訳や著述を次々に手がけた。
第五回再興院展に『一本灌木』他三点出品して樗牛賞を
うけ、以後草土社だけでなく、再興院展にも毎回出品。

再興院展の洋面部消滅で若者の発表の場が失われた
と考えた山本鼎は、責任を感じて春陽会発足時に木村
宅を礼装で訪れ、春陽会に誘った。創立客員、まもなく
会員となった木村は、二四年に自宅での勉強会、画談会
をたちあげ、山本の世話になりながら、積極的に春陽
会に深く関わっていった。岸田退会の際にも春陽会に残

り、《牛肉店帳場》といった「東京風景」をテーマにした代
表作を次々に発表した。

春陽会事務局を足立源一郎より引き継ぎ、第三期事
務所を三六年から四八年まで担当、亡くなった際は春
陽会が葬儀を執り行った。《お七櫓に登る》は第二回展
出品作。木村は観劇を好み、歌舞伎を題材にした作品
を複数出品した。《パンの会》は第六回展出品作で、木村
の代表作として知られる。「パンの会」とは、明治四〇年
代はじめに催された文人画家交歓の会で、木下奎太郎
や谷崎潤一郎、文学青年だった木村の兄莊八も参加し
ていた。木村は三〇歳ごろより日本画を描きはじめ、頻
繁に描くようになっていった。《遷東綺譚》は木村の挿絵
の代表作である。

《作家・作品紹介》から

以上、「春陽会誕生一〇〇年 それぞれの闘い」から
部分引用

②《奉讃展を観る 仲田勝之助》

東京朝日新聞 昭和五年四月八日から一〇日までの
三回にわたる 記事。その第一回の記事から

「奉讃展、詳しくいへば聖徳太子奉讃美術展覧会はい
ふまでもなく太子奉讃を主とし、全日本美術家が合同
して四年に一度開く、我が国における

唯一の総合美術展覧会で本年のはその第二回目であ
る。日本画四一六点、西洋画三七七点、彫刻二六二点、
工芸二七九点、総点数一三三四点である。

見学に二、三時間かかる。

* 第二回奉讃展は、昭和五年の三月十七日〜同年四
月十四日に開催された。同展覧会の規程では「五年に一
度開催」されるので、本来、昭和六年の開催なのである
が、「開催趣意書」にあるように、恰も昭和五年は「故総
裁久邇元帥宮殿下御一週年に就き聊か奉悼の微意を
表し度」ということで、一年早く開催されたようである。

(以下、次号 その6に続く)

フ
ロ
ン
ジ
エ
ウ
ト

「巨木・銘木を巡る会」(実施報告)

千葉大学 西千葉キャンパスを巡る

佐々木 侑(会員)

令和七年度の第一回「巨木・銘木を巡る会」を四月二六日(土)に実施した。今回の調査場所は千葉大学西千葉キャンパスでの観察である。

千葉大学は一八七二年創立、一九四九年新制大学設置。官立千葉医科大学の流れを汲む旧官立大学の一つで、西千葉地区にある自然豊かで広大な西千葉キャンパスに本部を置き、医学部・付属病院のある亥鼻地区、園芸学部、松戸、環境健康科学の柏の葉にもキャンパスを保有している国立大学である。

我孫子駅改札前に九時集合。参加予定の三名が怪我・病氣・急用などでやむを得ず急きよ欠席となり、今回は四名での樹木観察調査となった。一〇時一五分頃に総武線西千葉駅に到着、駅前の千葉大学南門より入校し早速調査を開始した。

◆ 南門付近

工学部の一号棟そばの「松韻会館」の前に聳えるクスノキの巨木二本に圧倒されつつ、正門に向かう通路には見事なクロマツが防風林の名残なのか一定の間隔を空けて続いている。その間隔を埋めてマテバシイが根元に大きなどんぐりの実を散り落としていた。マテバシイはどんぐりの仲間ではとても大きな実を付ける。「格上のシイの木になりたくて待っているのだが、いつになってもシイの木になることが出来ずにマテバシイになれるかと思いつち続けている、大きなどんぐりを付ける木です」などと根拠のないことを駄洒落で説明した。

松韻会館



国際教育センターの前にはタイサンボクが植樹されていた。小さく花芽が出ていたか五、六月のはじめまでには白い大きな花が咲くことと思われる。

◆ 正門脇

正門の近くにはの駐車場を囲みクスノキの巨木があり、簡易巻尺で周囲概算を図ったところ三・七〇メートルあることが確認された。

クスノキは飛鳥時代から木造仏を造るために利用された。鑑真来日以後はカヤに材料変更されたが、耐水性が強いので木造船の材や海中の鳥居(厳島神社等)に使用された。またまろやかな音がするので木魚の資材でもある。また防虫剤としてクスノキから作られる樟脳は余りにも著名であり、六トンのクスノキ木材から、二五キロの樟脳の結晶と樟脳油が取れる。また強心剤としてのカンフル剤になる。さらにクスノキから取れる樟脳は江戸時代には薩摩藩から欧州などに輸出され、金・銀に次ぐ日本の重要な輸出品だった。(樟脳とニトロセルロースで合成樹脂セルロイドが出来る)

正門の周辺にはクスノキ、ケヤキ、スダジイ、黒松、タイサンボクの巨木が多数観察された。スダジイの根元には昨年の秋の実(どんぐり)がまだ残り幾つも確認できた。スダジイの実には飢饉の際に非常食として利用されていた。スダジイの実には「椎の実」と呼ばれ灰汁が少なく、生食も可能であり、そのため神社や寺院の境内に植えられた。現代では考えられないが、地域の飢饉など困難な時期に食料として活用できるようにされていた。椎の実

は、炒ったり蒸したりして食べ、栗のような風味があるとされ、飢饉の際には貴重な食料源となった。

◆ 人文社会科学系棟の前

附属小学校の校庭の脇道を通り、人文社会科学系棟の前にエノキの巨木が数本観察された。エノキとケヤキ、ムクノキの三本は樹木の形状や樹皮や葉がよく似ているので区別が付け難い樹木とされている。以下の特徴を観察することで、ケヤキ、エノキ、ムクノキを区別することができる。

葉の特徴・・・ケヤキ・・・葉は鋸歯が波形で、枝に交互に葉がつく。葉の表面はややざらついている。



エノキ(大学院人文公共学府前)



クスノキ(正門脇)

…エノキ…葉の鋸歯は丸みを帯び、葉の表面は両面ともざらついている。…ムクノキ…葉の鋸歯は角ばり、枝に対して交互に葉がつき、葉の表面は著しくざらついている。

樹皮の特徴…ケヤキ…樹皮は鱗状に丸みを帯び剥がれる。

…エノキ…樹皮は横方向にしわが入り、象の皮膚のように見える。剥がれない

…ムクノキ…樹皮は短冊状に剥がれる。樹形の特徴…ケヤキ…ムクノキ…箒をひっくり返したような形で、幹の先から枝分かれする。

…エノキ…低い位置から枝分かれしやすく、こんもりとした樹形になる。

左手に教育学部、右手に総合校舎の通りを北方面の陸上競技場に向かうとスズカケの通りとなる。スズカケの木(鈴懸の木)は、スズカケノキ属(プラタナス)に属する落葉高木で、主に以下の種類がある。

① スズカケノキ・ヨーロッパ・南東部からアジア西部が原産で、日本では街路樹や公園樹としてよく見られる。葉は深く裂け、樹皮は薄く大きく剥がれやすいのが特徴。果軸に三〜五個の球形の集合果がぶら下がる。

② アメリカスズカケノキ…北アメリカ原産で、葉の切れ込みが浅く、樹高が非常に高くなることがある。樹皮はあまり剥がれない。果軸に一個の集合果が付く。

③ モミジバスズカケノキ…スズカケノキとアメリカスズカケノキの交



メタセコイア

ケノキの交配種で、葉の形状や果実の特徴は両親種の中間的な性質を持つている。樹皮は剥がれる。果軸に二〜

四個の集合果が付くが、二個の場合が多い。これらの木は、成長が早く、葉が大きくて日陰を作りやすい。スズカケノキの果実が鈴に似ていることから「鈴懸の木」と呼ばれるようになった。

◆ サッカーラグビー場近く

体育館の脇を通り陸上競技場へ向かう通りから、附属中学とサッカーラグビー場の間の通りに、まっすぐ天空に伸びているメタセコイア(あけぼのすぎ)が一〇本確認できた。途中の左側にはアカメガシワの高木もある。

陸上競技場とサッカーラグビー場の間には珍木のアメリカニレの太木が発見できた。余りお目に掛かれない樹木ですので調べた範囲で簡単に記録する。

アメリカニレは、北アメリカ東部原産の落葉高木で、非常に印象的な特徴を持つ樹木。以下その概要。

葉と紅葉…葉は長さ約一五センチで鋸歯状の縁を持ち、秋には黄色や茶色に紅葉する。

高さや形状…樹高は三〇〜四〇メートルに達し、幹の直径は一〜二メートルほどになる。広がった樹冠が特徴で、街路樹や庭園樹として人気がある。

花と果実…春に葉が芽吹く前に花を咲かせ、果実は種子を囲む翼を持つ小さなサマラ(翼果)である。

耐性 -40℃

までの寒さや高温にも耐えられるため、非常に丈夫。

用途 観賞用

として庭園や公園に植えられ、木材は家具や建築資材としても利用される。



ナンジャモンジャ

サッカーラグビー場の北側角にヒトツバタゴ(なんじゃもんじゃ)の白い花の満開状態を発見した。この花の満開を意図せず観られるのは非常にラッキーなことであり、参加者全員で本日を観察日としたことを祝福しあつた。

第一体育館前を東に向かう通りにはイチヨウ並木道であり、その先の理学部の北側通路にはモミジバフウの並木道がある。

イチヨウの木は雌雄異株であり雌株にギンナンがなる。雌雄株の見分け方はいくつかあるが、樹形の違いで判断するのが簡単である。雌株は縦に垂直に枝が伸びる傾向があり、雌株は枝を横に広げる傾向がある。また秋になると雌株にはイチヨウの実(ギンナン)が沢山なるので、春先まで根元や枝の下には実が必ず見付かり雌株と判る。街路樹のイチヨウは、ギンナンの強い臭いを避けるため雌株が選ばれることが多い。

モミジバフウ(紅葉葉楓)は落葉高木で北米原産の樹木。別名「アメリカフウ」とも呼ばれ、日本には大正時代に渡来し公園や街路樹としてよく植えられている。葉はカエデに似た形で、秋には美しく紅葉する。紅葉の色は黄色、橙色、赤、紫褐色など多様である。

◆ 理学部近く

理学部とゴルフ練習場・水泳プールの間の通路の理学部側の植え込みにウバメガシがある。ウバメガシ(姥目榎)は、ブナ科コナラ属に属する常緑広葉樹。備長炭の原料としても知られ、特に紀州備長炭や土佐備長炭の原料に使われその価値は非常に高い。ドンギリも実る。庭木や生垣、沿岸部の防風林や緑化に適している。ウバメガシは単なる樹木ではなく、地域の歴史や文化と深く結びついているのが面白い。各地には天然記念物に指定された巨木があり、歴史的な逸話や伝説と結びついている樹木が多い。天然記念物の一例…和歌山県美浜町の「御崎神社のウバメガシ」、同田辺市の「龍神宮のウバメガシ」、大分県津久見市の「姥目のウバメガシ」、長崎県五島「五島青方ウバメガシ」など。

理学部一号館南側に一本立ちの抜きん出て高く伸びたモミノキがある。モミノキは日本特産の針葉樹であり、二酸化炭素の回収・貯留を行い、環境変動の影響を緩和するのに役立つ樹木。しかし、気候変動、伐採、害虫の影響により、モミノキの生存が脅かされて、特に気温の上昇や環境悪化によりモミノキやその森林はほぼ消滅する可能性があると推定されている。

モミノキ



ミズキ



ユリノキ



モミノキの近くにミズキがあり、その枝という枝全体に真つ白な花をつけていた。ミズキは、春から初夏にかけて白い小花を密集させて咲かせ、秋には黒紫色の実をつける。枝を切ると樹液が多く流れ出るので「水の木」と名付けられ、樹形は階段状になる。材は緻密で「けしや箸」などの材料として使われている。

旧薬学部一号館と楓ホール間に、ユリノキが花の蕾をつけていた。ユリノキ(百合の木)は、落葉高木で、北米東部原産の樹木。日本には明治時代に導入され、公園や街路樹として植えられている。葉の形が軍配や半纏(はんてん)に似ているので「グンバイボク」「ハンテンボク」とも呼ばれる。花は五〜六月に黄緑色の花を咲かせ、オレンジ色の斑紋がある。チューリップに似ていることから「チューリップツリー」とも呼ばれている。

上野公園の東京国立博物館前のユリノキの巨樹は、明治時代初期に日本に持ち込まれた樹木で、博物館の歴史とともに歩んできた象徴的な存在である。明治八年(一八七六年)頃に渡来した三〇粒の種から育った一本の苗木が、明治一四年(一八八一年)に現在の場所に植えられた。このユリノキは樹齢約一四〇年を迎えて、その堂々たる姿から「ユリノキの博物館」とも呼ばれている。

◆ かたらいの森

樹木観察も終わりに近づき、桜の花は終焉していたがソメイヨシノの太木が並木をなしている通路を通り、西千葉キャンパス中心部の付属図書館本館前「かたらいの森」に到着した。この広場は広大な開けた緑地広場であり、クスノキ・タブノキ・ヤマモモノキ・スダジイ・マテバシイ・イロハモジ・ケヤキ等々が植樹され、学生・教授や職員の憩いの場所となっている。我々もしばしの休憩をとった。雑談では、「桜の木でもソメイヨシノは何故に一本立ちの樹木でなく、根元近くから何本も枝を付けているのか？」との話がでた。

た。



回答は、「ソメイヨシノはエドヒガンザクラとオオシマザクラの交配種であり、自然交配ではソメイヨシノの種子を作ることがなく、挿し木や接ぎ木で増える。遺伝的にほぼ同じ個体でクローンのような存在である。オオシマザクラなどを台木として接ぎ木されることが一般的である。そのために根元

シイノキ (南門近く)



タブノキ (南門近く)



から枝が出やすくなる。接ぎ木や挿し木で増えた樹木は、根元から新しい枝(ひこばえ)が出やすい。それで、枝を大きく広げた美しい花を全体に付けた満開の姿が、全国どこでも楽しめる訳です。

また、クローンのため、病気や環境変化への適応力が低いので寿命が約六〇〜八〇年と比較的短い。但し適切な管理により一〇〇年以上生きることが可能で、青森県の弘前公園には、樹齢一三〇年以上のソメイヨシノが現存していると例もある。雑談を交え、爽やかな春の日差しの中の楽しい観察会が終了した。

終了時間は二時四五分。二時間三〇分間の歩行での観察会であつた。ご苦労様でした。

第五十二回短歌の会

三月二十六日開催

ふきのとうわらび携ふる友の来し
男の手料理春の夕暮れ

佐々木 侑

貰いこし一枝の花沈丁は

忙中閑の時を潤す

村上 智雅子

七五調日常茶飯読むことで

心落ちつく事多かりし

前原 安世

懐かしい気持ちで送る年賀状

梨の礫なし つぶても多くなりゆく

納見 美恵子

生と死とどれほどの差があるものか

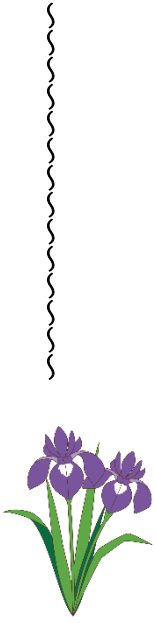
あの君さえも死ぬと知りては

伊奈野 道子

掃き清め梅の蕾に春を待つ

鬼を追ひ遣る子の神の庭

芦崎 敬己



当会の行事予定

□「文化講演会」

(我孫子市教育委員会後援)

演題 『暗夜行路』に描かれた日本橋界限

日時 五月二十五日(日) 14:00～15:30

会場 けやきプラザ、九階ホール

講師 辻史郎氏 白樺文学館館長

申込 不要、当日先着順(定員 八十人)

○参加費 三〇〇円(当会会員無料)

問合せ ☎(090-2594-6844)(芦崎)

(詳しくは1ページを参照下さい)

□「史跡文学散歩」

《都内の街歩き》

(我孫子市教育委員会後援)

日時 六月十四日(土) 9:00～15:30頃(予定)

行先 中央区日本橋一帯(詳細未定・例示)

【日本橋、三越本店、コレド室町、貨幣博物館、他】

講師 越岡 禮子氏 (当会顧問)

テーマ 「日本橋界限を訪ねる」

定員 二十人(内、会員枠一〇人)(多数の場合抽選)

申込 6/1～6/5の間で氏名・電話を記載したメールで

ashit.akal114@gmail.com

○参加費 五〇〇円(当会会員無料)

問合せ ☎(080-5029-6844)(芦崎)

(詳しくは1ページを参照下さい)

□「放談くらぶ」

日時 六月二十一日(土) 14:00～16:00

会場 あびすた 第2学習室(市民図書館 2階)

講師 村上智雅子氏(当会会長代行)

演題 「武者小路と我孫子―志賀との絆に触れて」

定員 四十人(先着)

○参加費 三〇〇円(当会会員無料)

問合せ ☎(090-2594-0425)(佐々木)

(4ページ「あびこだより」を参照下さい)

□ 次の「放談くらぶ」は、八月中旬を予定しています。

内容、講師は現在選考中です。ご期待ください。

□ プロジェクト「巨木・銘木を巡る会」

日時 六月二十八日(土) 雨天中止

場所 「二橋大学 国立キャンパス」

集合 我孫子駅改札口 9:00

問合せ ☎(090-2594-0425)(佐々木)

□ プロジェクト「短歌の会」

第五十三回短歌の会 けやきプラザ10階小会議室

日時 五月二七日(火) 13:30～

第五十四回短歌の会 けやきプラザ10階小会議室

日時 七月二日(火) 13:30～

編集後記 ▼遂にアメリカドナルド大統領が貿易

赤字解消の関税交渉を發動した。自国第一主義の

ドナルド方式に、我が国も担当大臣が交渉の為に

渡米した。大臣の緊張感理解出来るが、自らを

「下」と卑下するのは如何なるものか。大臣の

後ろには1億二千万人の国民がいる。政治家とし

ての矜持はないのか。使えない武器を買われる

ことだけは断固拒否。▼先日、令和五年の出生

数が七二万七千人だと発表された。毎年二百万

人以上も生まれた団塊の世代から見ると、驚愕の

数値である。少子化が一段と早まり、今後の社会

構造や政策の制度設計の見直しが必要になる。

▼政府備蓄米の出荷が行われても目立って下がり

ない米価。食料品の多くも物価高騰が収まらな

い。主食の価格は下げられないのか。食糧安保が

益々危機的だ。▼この度の我孫子市教育委員会の後

援を受けた当会の文化講演会と史跡文学散歩は、

大正・昭和初期の日本橋の街や時代雰囲気を感じら

れる貴重な機会となると思う。白樺派の一層の理

解に繋がるイベントになつて欲しい。(あしたか)

